



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2008年6月現在、川崎2、横浜5、県域11 計18名で活動中！！

～ '08 9/14 神通研集会報告⑦～

「3つのコミュニケーション方法を
使い分けて自己紹介」

- *相手の立場を考える
- *お互いの認識を深める

地域名・氏名・ろう者か健聴者か

分科会「手話サークル」に参加した理由は？

- ・「サークル」のあり方を勉強したい
- ・「サークル」活動についての悩み解決のため
- ・他の「サークル」の情報が欲しい
- ・地域に持ち帰る情報が欲しい
- ・昨年も参加し、地域のサークルで問題を話し合ってきた
- ・昨年も参加し、参考になった
- ・「災害」についての情報が欲しい
- ・一番身近なテーマ

～ 定例会 '09/5/16 (土) ～

新たな年度が始まった時期、役員交代についての意見交換がありました。性格的な得て、不得手。時間的な問題等々の理由でなかなか次の役員さんが見つからないサークルもあるようです。

社会全体が個々な活動が中心になり、組織形成が難しくなっていることは確かです。新たに関わる人たちが活動しやすい環境を整えつつ、多くの人たちと出会うことの楽しさは伝えていきたいですね。

【次回定例会】
6/21 (日) 13:00～15:00
かながわ県民センター 12F
ボランティアコーナー

～サークル研究班メンバーのささやき～

「先生！ おんがく、なんですか？」日本語教育実習の場で生徒からのいきなりの質問……一瞬、私の頭はフリーズ。ビートルズ？いや、おんがく＝グループ名と勘違いするから、説明には合わない……

「え～と、おんがく……あっ、耳で聞きます。ジャズ、クラシック、ロック、ぜんぶオンガクです」と、ホワイトボードに絵を書きながら、ジェスチャーで必死の説明……う～、日本語を外国人に教えるのは難しい……

ちなみに同期の子は「先生！ ちょうどいい なんですか？」って質問されていました(笑) M